

3 式場の必要性及び規模の整理

(1) 式場の設置状況の整理

ア. 施設概要・運営概要

市川市斎場には、第1式場（200席：500～1,000人対応）、第2式場（50席：100～200人対応）、第3式場（100席：200～500人対応）の3つの式場が設置されており、市の直営で運営している。通夜、告別式で利用され、宿泊も可能である。

図3-(1)-1 航空写真・施設概要



出典：市川市斎場再整備基本方針

利用予約は、葬祭事業者によることが一般的であり、斎場への電話（24時間対応：午後5時～午前8時30分は市役所守衛室）または斎場事務室での直接受け付けとなっている。利用料金は、1時間単位の設定となっており、通夜、告別式を執り行う場合、通常、通夜当日は午後3時～午後9時まで、告別式当日は午前9時から出棺時間までとなっており、正午の出棺であれば9時間の利用料金となる。

式場は3式場あるが、第1と第2式場は同一建物に併設されているため同時利用はできない。このため、1日の貸し出しは2件までとなっている。

イ. 式場の課題

基本方針では、

・経年劣化による老朽化、これによる維持管理費の増、バリアフリー対応の不十分さ

アンケート結果等では、

・小規模葬儀、大規模葬儀への対応

・式場から火葬棟までの移動距離・動線

・雨天時の対応

・バリアフリー、ユニバーサルデザイン対応の不十分さ

・限られた霊安室の利用

・通夜の際の宿泊対応

・音響・映像設備の設置、空調設備の改善

・案内看板の不足

などが、課題として挙げられている。

(2) 式場の必要性の検討

ア. 式場の利用状況

式場の利用状況は、過去10年間の平均では、第1式場11.3件、第2式場181.3件、第3式場166.9件となっており、第2式場の利用が最も多い。第1式場は月1回にも満たず、利用率は低くなっている。令和2年度は突出して利用件数が少なく、各式場の利用件数は令和元年度以前と異なる傾向を見せているが、これは新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け、4月13日より一定期間第2式場を閉鎖したことによるものである。

利用件数は、式場全体では平成25年度以降ほぼ横ばいで推移しているが、第1、第3式場は減少し、反面、第2式場は増加傾向を示している（平成22年度と令和元年度の比較では、第1、第3式場はそれぞれ46%、32%の減少。第2式場は10%増加）。これは、社葬や地域葬のような大規模、中規模な葬儀に代わり、家族葬のような小規模な葬儀の需要が増加していることをあらわしていると考えられる。

また葬儀形態については、慣習に従い通夜、告別式を執り行う形態は残ってはいるが、告別式のみや通夜、告別式を執り行わない直葬が増加している（直葬件数：平成23年度159件→令和元年度532件 増加率234.6%）。

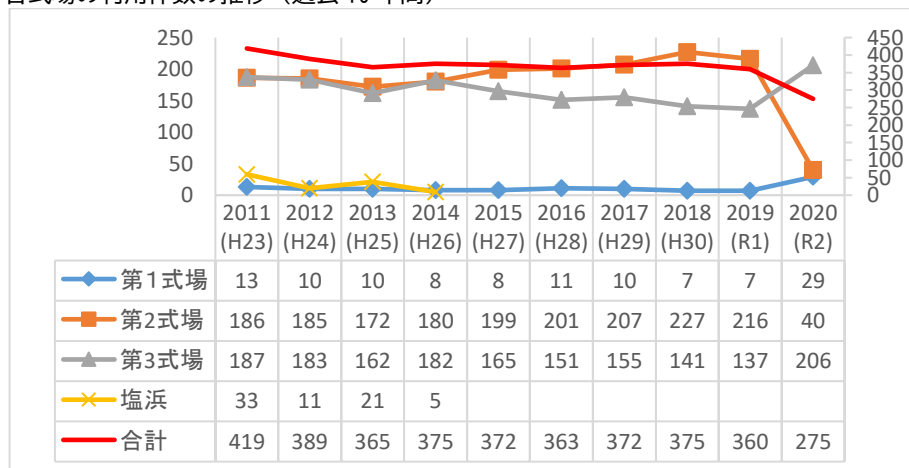
図3-(2)-1 式場の利用状況等

式場利用状況(目的別)			式場等別利用状況(利用件数)						(参考)	(参考)	(参考)
年度	通夜 告別式	法事	第1式場	第2式場	第3式場	塩浜	式場小計	第3告別室	市扱い 葬儀	直葬	火葬件数 総数
2009(H21)	440	2	19	184	195	44	442	33	232	-	2,961
2010(H22)	453	3	13	197	200	46	456	44	283	89	3,013
2011(H23)	416	3	13	186	187	33	419	53	261	159	3,199
2012(H24)	396	3	10	185	183	11	389	34	214	196	2,957
2013(H25)	361	4	10	172	162	21	365	58	219	231	3,039
2014(H26)	375	0	8	180	182	5	375	54	207	297	3,283
2015(H27)	372	0	8	199	165		372	33	171	334	3,453
2016(H28)	362	1	11	201	151		363	34	143	371	3,459
2017(H29)	371	1	10	207	155		372	32	115	401	3,307
2018(H30)	375	0	7	227	141		375	26	111	469	3,326
2019(R1)	360	0	7	216	137		360	28	97	532	3,520
2020(R2)	275	0	29	40	206		275	1	61	661	3,679
H23~R2年度 10年間平均	366.3	1.2	11.3	181.3	166.9	17.5	366.5	35.3	159.9	365.1	3,322.2

※塩浜式場は、平成26年6月30日閉場

※第2式場は、コロナ対策（3密回避）のため、令和2年4月13日から閉鎖

図3-(2)-2 各式場の利用件数の推移(過去10年間)



※塩浜式場は平成26年6月30日閉場 ※第2式場は令和2年4月13日から閉鎖

出典：市川市資料より作成

イ. 葬儀の傾向

近年の葬儀の傾向について各種文献等の調査を行った。

全国的な傾向として、家族葬や一日葬、葬儀を執り行わない直葬がふえており、会葬者の減少に伴い小規模化、簡素化されている。これは、市川市斎場の利用状況と同様の傾向を示している。また、オンライン葬儀など、新しい葬儀スタイルも生まれている。

葬祭事業者に対するアンケート、ヒアリングによる調査を行ったが、その結果は同様の傾向を示している。

ウ. 市民の葬儀や式場に関する考え方

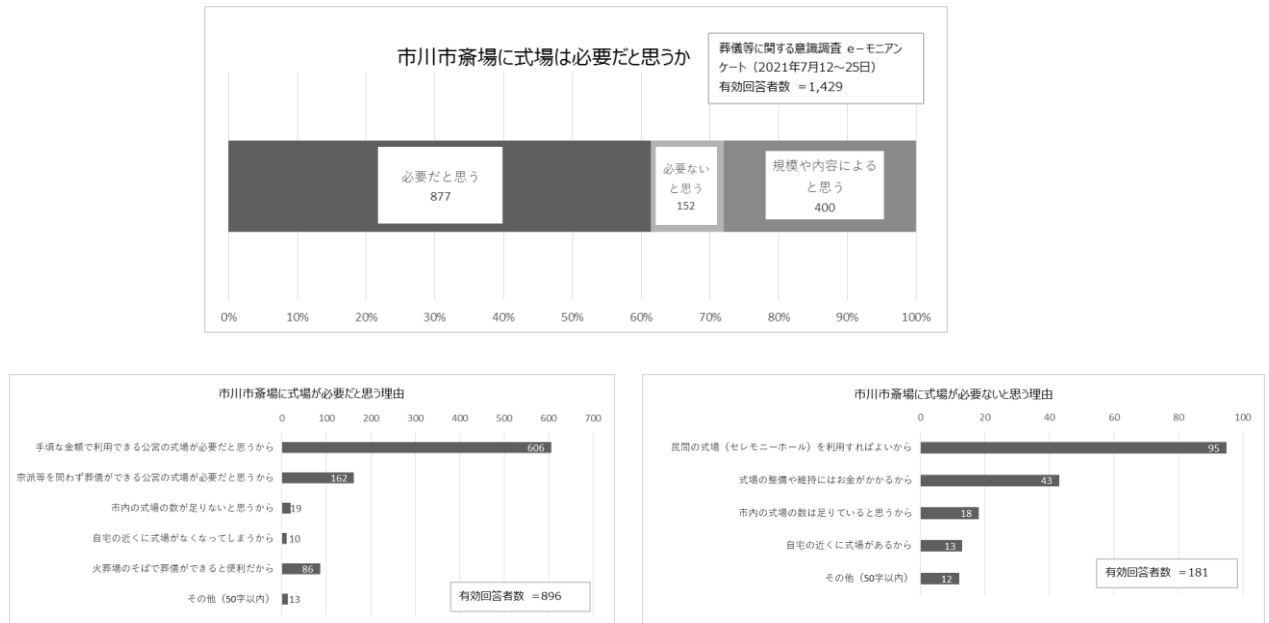
市民のニーズを調査するため、e-モニター制度を利用し、アンケートを実施した。その結果、葬儀について家族葬等の小規模な葬儀を希望する割合が高く、葬儀式場の選択基準としては、参列者が集まりやすい場所にあることなど利便性が重要であることがわかった。(別添参考資料参照)

市川市火葬場への式場設置の必要性を聞いたところ「必要だと思う」が1,429件中877件と回答者の61%を占めており、過半数が必要と考えていることがわかった。なお、「必要ないと思う」は152件(11%)、「規模や内容によると思う」が400件(28%)であった。

式場が必要だと思う理由について最も近いものについては、「手頃な金額で利用できる公営の式場が必要だと思うから」が最も多く606件(68%)と約7割を占めた。続いて「宗派等を問わず葬儀ができる公営の式場が必要だと思うから」が162件(18%)、「火葬場のそばで葬儀ができると便利だから」が86件(10%)となった。公営式場として、手頃な費用と誰でも葬儀を行うことができる機会を確保する役割が期待されているといえる。

式場が必要ないと思う理由について最も近いものについては、「民間の式場(セレモニーホール)を利用すればよいから」が最も多く95件(52%)であった。続いて「式場の整備や維持にはお金がかかるから」が42件(24%)、「市内の式場の数は足りていると思うから」が18件(10%)であった。民間の式場がある中で、施設を整備し将来にわたり公共が費用負担することへの懸念がみとれる。

図3-(2)-3 市民アンケート結果



※有効回答数が合致しないのは、前提となる回答としていない人も回答できるシステムのため

工. 式場の必要性

式場の利用件数は、過去 10 年間では減少傾向にある。しかし、ここ数年の利用状況を見るとほぼ横ばいとなっており、中でも第 3 式場の利用件数が減少している反面、第 2 式場は増加している。これは、通夜、告別式を執り行わない直葬が増えてはいるが、葬儀規模は小規模化しても、何らかの葬儀を執り行いたいとの考えがある、ととらえることができる。これは、葬祭事業者アンケートの結果においても同様のことが窺える。

市民アンケートによると「式場は必要である」との回答が過半数を占め、この理由は「手頃な料金で利用できる公営の式場が必要だと思うから」等であり、公設の式場は、手頃な料金で葬儀を執り行うことのできる機会の確保が求められていると言える。また、葬祭事業者アンケートでも「式場は必要」との回答が多数を占める結果となっている。

そこで、市として式場を整備運営する必要性について思料すると、市内には一定数の民間式場が存在しているものの、民間式場と市川市斎場の双方で市民の葬儀需要を担っている現状があること、今後も「式場は必要である」との一定のニーズが存在するものと推測できることから、式場は必要な施設であると判断する。よって、再整備後の新たな斎場においても、式場を設置することとする。

ただし、その規模については、現在のように 1,000 人規模の参列者を想定した式場は設置せず、10 人～100 人程度の参列者を想定した規模の式場とする。さらに、パーティションで仕切るなど、大きさの調節ができる、葬儀規模にフレキシブルに対応できる式場とする。

式場数については、一定のニーズがあることを踏まえ、少なくとも現状と同等の 2～3 式場を設置するものとする。

(3) 式場の計画

前項の式場の必要性に関する調査・分析の結果により「式場機能は存置する」という方針のもとに、式場の規模、レイアウト、諸室内容、概略面積を整理する。

ア. 式場規模と諸室内容

斎場基本方針及び「火葬場の建設・維持管理マニュアル-改定新版-」を参考とした計画方針に、式場の必要性の検討から得られた内容を加え、計画方針をまとめる。

表 3- (3) -1 式場諸室整備内容の一覧

部門	諸室名称	計画方針	設定規模 (㎡)
式場ゾーン	エントランスホール	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間に多くの来訪者が利用するため、式場と同等の面積を確保する。 ・ソファ等を設置し、会葬者がゆっくり過ごせる計画とする。 ・葬儀業者以外の業者、搬出口は不要。 ・車寄せを計画する。 ・天候に影響されないよう火葬・待合棟との相互のアクセスに配慮する。 	300
	式場	<ul style="list-style-type: none"> ・20名程度の小規模な式から50名・100名程度の式を行うことができる計画とする。 ・移動間仕切りにより分割して利用できる計画とする。 ・複数の式場を利用する場合、他の会葬者との動線の交錯等に留意する。 ・一人当たりの占有面積1.5㎡ ・計画部屋数 <ul style="list-style-type: none"> 式場(100名規模)…2分割により50名×2 式場(50名規模2室)…分割なし 	300
	控室	<ul style="list-style-type: none"> ・遺族控室：式場50名規模に対し約40㎡程度 ・遺族控室には各室シャワー室又は浴室を設ける。 ・宗教者控室：式場50名規模に対し約15㎡程度 ・会葬者利用する一般控室は式場の約半分程度の規模を設ける。 	370
	トイレ・給湯室	<ul style="list-style-type: none"> ・控室の配置に応じて利用しやすい場所に設置する。 ・男子、女子、多目的別に必要数を設置する。 ・多目的トイレのほかに、男女のトイレそれぞれに手すりを設けた個室及び洗面台を1基以上設置する。 	90
	授乳室	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児への授乳を行う部屋をエントランスホールに設置する。 ・椅子、ベッド、給湯設備、流し台等、必要な設備を設置する。 	5
	キッズコーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が見守りやすい設えとする。 	15
	会葬者更衣室	<ul style="list-style-type: none"> ・会葬者が更衣を行えるようスペースを確保すること。 ・各階に約15㎡/室程度 	30
	コインロッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・会葬者が荷物を預けることのできるコインロッカーを設置すること。 	10
	業者控室		30
	事務室		20
機械室・倉庫		30	
その他廊下等	<ul style="list-style-type: none"> ・上記合計床面積の約3割増しで計画 	360	

イ. 式場の考え方

式場は移動間仕切りにより分割して利用できる計画とする。下図のように、100名規模の式場2分割できるものとし、分割した場合でもそれぞれの式場に遺族控室が割り当てることができるレイアウトとする。

図 3- (3) -1 可変性のある式場のイメージ

